巻頭言

『軟包装材』って何？

全国グラビア協同組合連合会
会長 田口　薫

「空気と水はタダ」 今時、そんなことを言う人はいないだろう。花粉症やハウスダストにさいなまれ、新型コロナウイルス感染予防のためと言って空気清浄機を設置したり、「水道水は不味（まず）い」と言って浄水器を取り付けたり、ミネラルウォーターを買い込む人も少なくないからだ。

だが、こうした身の回りの安心・安全を手に入れるために喜んでお金を使う生活者（消費者）でも、食品や医薬品の安心・安全を担っている軟包装材には、なかなか理解を示してはくれない。空気と水はタダではないが、「過剰包装はけしからん」「包装はゴミとなるので初めから要らない」、こんなことを平気で口にする人は大勢いる。

ちなみに水道水については、日本で長く生活しているアメリカ人が、「こんなにおいしいのに、日本人がわざわざミネラルウォーターを購入して飲む気が知れない」と言い、自身は、空になったPETボトルに水道水を注いでおいしそうに飲んでいたのを目にすると、我々はどこかで過剰なマーケティングや宣伝に洗脳されてしまっているのではとさえ思ってしまう。

ところで、食品包装に多用されている、主としてプラスチックフィルムから構成される軟包装（フレキシブルパッケージ）材の製造を手掛ける業界は今、大変な局面を迎え、一歩間違えると存立さえ危ぶまれる状況に置かれている。

長らく、発注者の要求を咀嚼（そしゃく）し、可能な限り百点満点の出来映えを目指し、お客様第一と考え、より安価な包装材の提供に努めてきたが、PB（プライベートブランド）商品の取り扱い点数を増やして利益を上げようとするスーパーやコンビニ、さらには彼らの手となり足となり軟包装材の供給を担当する商社からの値下げ要求はとどまることを知らない。それに加えて、2020年２月以来の、新型コロナウイルスのパンデミックに端を発する中国のロックダウン、コロナ禍からの世界経済の急激な回復、石化コンビナートが集中する米国メキシコ湾を襲った寒波、海運の混乱、ウクライナ・ロシア戦争に端を発する食糧およびエネルギー価格の高騰、フィルムや接着剤、インキなどの素となる原油価格の高騰、ドル高円安などの外部要件が次々と襲い掛か

り、これまで経験したことのない、百年に一度と言われる危機に直面する事態となっている。また、それ以前から、マイクロプラスチックによる海洋汚染、CO_2排出による地球環境汚染の元凶の１つがプラスチックとされ、軟包装材そのものも悪者というイメージがマスメディアやSNSで拡散されてきた。

全国グラビア印刷協同組合連合会の安永研二副理事長は、軟包装材のプラスの面は、なかなか気づいてもらえないと語る。

「軟包装は金属箔や紙等との複合はあるものの、フィルムも、インキ・接着剤もプラスチックです。プラスチック資源循環や海洋プラスチック汚染等の影響もあり、今や、『プラスチックは悪』というレッテルが貼られています。しかし、元々プラスチックは環境問題に関しては、ある意味、貢献者であり優等生でもあります。何故なら、金属やガラスといった素材に比べ比重が軽いため、食品等の中身を保護し、輸送時・倉庫・店舗等での作業に関しても取り扱い易いことも含め、省エネルギーに貢献してきました。反面、軽いが故に、体積では目立ってしまいます。比重だけで環境問題を語ることはできませんが、長所と欠点は紙一重、表裏一体で考える必要があるのではないでしょうか。軟包装材は、食品等を安心・安全な形で生活者に届ける素晴らしい機能を持つ、必要不可欠な包装材でもあるのです」

また、安永副理事長はこうも続ける。

「我々はもっと軟包装の素晴らしさ、機能面・便利性等の凄さをアピールするためのロビー活動等をしなければならないと感じています。食品や医薬品を剥き出しのまま生活者の方々にお渡ししても、果たして受け取ってくれるでしょうか。軟包装材無くして安心・安全・衛生性は担保できません。食品や医薬品は、軟包装材と組み合わせて初めて商品として流通可能になるのです。その意味では、我々も社会のインフラの一端を担うエッセンシャルワーカーと言えるのではないでしょうか。しかし、我々がエッセンシャルワーカーの一員であることを生活者の方々はどれほどご存じでしょうか。実は、新型コロナウイルスの感染が拡大し、緊急事態宣言が発出された2020年４月、コロナ禍にあっても工場を止めずに稼働し、包装材を休みなく供給してきた我々も『食品産業』の一員として認めてほしい旨を行政に伝えたところ、経済産業省からは、『（食品産業と同様）感染者が出ても保健所の指示に従い操業して下さい』との心温まる応援コメントをいただきました。これは本当に嬉しかったですね」。

業界当事者は、プライドを持って、安心・安全・衛生な包装材加工の責務を果たしている。それほど重要な産業であるにもかかわらず、一般の方々の、軟包装材が果たしている役割への理解度は乏しく、過剰包装、プラスチックゴミと目の敵にされ、それを製造し続ける業界に対する世間の目は冷たい。

私は幾度となくこう訴えてきた。

「我が国は30年間成長が止まり、低価格、低所得、低金利、低物価の四低に苦しんでいます。30年前、米国と並走していた給与所得は、今や2.5倍に上がった米国に対し、日本は0.90と逆に下がっています。大規模流通業者は利益を確保していますが、中身メーカーはトップ企業と言えども買い叩きに遭って苦しんでいます。商品コストのわずか数％の割り当てしかない、サプライチェーンの底辺にいる我々は、中身メーカーが受けているシワ寄せの影響を受け、さらに苦しい立場に追いやられています。一昨年からの原油価格の値上がりや、最近の円安で原材料コストが急上昇し、フィルムは５度、インキ・接着剤・溶剤は３度も値上がりし、値上げを受け入れなければ材料が手に入らなくなりますので、値上げを受け入れざるを得ません。当然、発注者にはその分の価格転嫁をお願いしていますが苦戦しています。このままでは自社を含め業界はどうなるのか大変不安です」

軟包装加工業界の若手からはこんな声も聞かれる。

- ただでさえ業界は人手不足の上、価格転嫁もままならない低価格では、社員の昇給ボーナスもおぼつかず、他の業界に社員が流れてしまい、企業経営が成り立たない。
- 価格転嫁ができなければ機械の更新はおろか、メンテナンス予算も確保できず、故障が頻発し、軟包装材の供給ができなくなってしまう。
- 老朽化している設備のままでは、低生産性で低性能なため、社員にはますます長時間労働を強いることになる。
- 値上げが100％通らなければ、ブランドオーナーが望む高品質の印刷物を供給できなくなってしまう。
- 食品衛生法が改正され、軟包装材製造工場も保健所登録が義務付けられたが、知らなかったのでやっていない。防虫・異物管理を行う余裕などない。
- 社員の労働安全にも配慮せず、環境関連法規も守れず、社会的ニーズに応えるよりも機械を回すのが精一杯。違法が累積している。
- 火災事故、倒産、廃業が近年多発し、さらに増加するだろう。
- こんな事で軟包装は良いのか。信用を失い、社員を失い、包材産業が弱体化し、回復できなかったらどうするのか。
- 四低の中で弱者にシワ寄せをしても日本が疲弊するだけだ。
- できない事を無理してやらなくても、①注文を断る、②取引条件を変更して、できるようにする。発注側と受注側は全く対等であることが忘れられがちで、発注者が一方的に脅し、受注側がそれに恐れおののくのは時代遅れ。

安永副理事長は、エッセンシャルコーポレーションという立ち位置で、軟包装加工業者、そして発注者双方の果たすべき役割をこう語る。

「エッセンシャルワーカーという言葉があるのなら、我々事業者はエッセンシャルコーポレーションとも言えます。では、それが無くなった時、お困りになるのはどなたなのかをよく考えていただきたいのです。当然、エッセンシャルコーポレーションも法令遵守は勿論のこと、スキル等も向上させ、市場にとって価値のある企業になっていなければ退場せざるを得ないことを肝に銘じる必要はありますが、SDGsの17のゴールを思い浮かべてほしいのです。人が住める環境とは、まずは、『汚染のない大地、空気、水』が必須なのは言うまでもありません。更に、『衣食住』を含むインフラを整えることが、人が安全・安心に生活していく上で必要不可欠とすると、それを充実させるためのエッセンシャルコーポレーションが利益を生める体質を構築できる施策も、経済発展の重要な１つと考えるべきではないでしょうか」

「エッセンシャルコーポレーションが生み出す軟包装とは、出来上がったばかりの加工食品等を瞬時に包装できれば、『鮮度保持・物流・表示機能』等を持ち合わせた優れものです。『不要不急』という言葉があるのなら、軟包装は『必要緊急』なものでもあるし、粗末に扱う事はSDGsの精神にも反するのではないでしょうか。また、『曲がった胡瓜（キュウリ）は食べられる』という概念を市場全体にご理解いただき、『異常・過剰品質』により、廃棄物を大量に垂れ流しているような実態を払拭することこそが、環境問題を語る上で、必要不可欠と考えるべきと思います」。

包材業界では、大ロットの仕事があれば安値で飛びつく時代は過去のものとなっている。たび重なる原材料やユーティリティコストの高騰に対し、境遇を理解し、価格転嫁を認めてくれる発注者と、頑迷なまでに価格転嫁を拒否する発注者がいる。

後者は、取引のある軟包装加工企業から利益を吸い取る吸血鬼のようで、その加工企業が倒れるとまた別の加工企業に寄生して吸い取ることを繰り返しながら生きながらえていくのかもしれないが、寄生できる加工業者がいなくなったら一体どうするのだろうか。

あるいは運悪く、劣悪な作業環境で加工を行う事業者を見つけ、仕事を発注しても、法令違反で摘発されたなら一体どうするというのであろうか。長いスパンでものを見る賢い日本を取り戻すことが必要であろう。我々軟包装材業界も、世界に誇れる日本の加工食品の品質を守るためには、おのれ良し、相手良し、世間良しの三方良しに立ち戻る必要があるのではないか。

VOICE

包装産業にとって下請企業は不要なのか
ある小規模グラビア印刷経営者の実態

昨年から続く原材料高の高騰は、軟包装材を製造する下請け企業には大きな重みとなっている。ここでは、その直撃を受けている、軟包装材加工を手掛けているある企業の現状を紹介する。

関東にあるＡ社は、社長と社員を含め４人の小所帯であり、社員の１人は70歳代であるため実質常勤社員は２名。事務職員はいない。年間売上は７千万円で、利益はほぼトントンだとういう。設備はグラビア印刷６色機１台、巻返機１台。主な得意先は、包材大手１社、ブローカー数社、印刷会社数社。

社長(55才)の１日の流れは、午前２時頃に起床、事務をこなして午前４時30分に出社し、１人で印刷機を稼働。午前８時に２人のオペレーターが出勤、午後４時～８時頃に帰宅、食事・入浴後、午後10時就寝のため、睡眠時間はたった４時間である。

社長は印刷作業に加え、近隣の配達、清掃、材料（版、フィルムの収納・出庫)、生産予定、売上伝票などの事務処理も印刷の合間に行っている。週１回、大学生のご息女が伝票整理と事務所片づけを手伝ってくれる。

この様な状況である中で、社長自身はほぼ土・日休みはない。学生時代にスポーツをしていた関係で体力には自信があると述べている。しかし、５年前に脳梗塞を患い半身不随となった。不自由な身体ながらも、印刷機に登って紙通し作業を深夜まで１人で行っている状況だ。同業者や周りから、「１人では機械に巻き込まれるので危険だ」と忠告されている。一方で、社長自身は、「社員や顧客のため、やれるうちはやるしかないと頑張る」と語っている。

続けて社長は現在の悩みとして、「加工賃があともう少し頂ければ、事務員も雇用でき、清掃・修繕も人並みにできるが、このままでは長くはもたない。原紙も版も長期間預かれと言われ、無料で倉庫代わりに使われる。ブローカーさんからは細かいクレームが多い。１人では対応できず、印刷のせいとして容赦なく値引かれる」と語っている。

受注量が安定している時期は問題なく経営ができているが、定時作業がいっぱいの閑散期は赤字に転じてしまうという悩みも抱えている。

これは発注側の問題でもある。外注先の経営状態、衛生・品質管理、継続性を考えずに発注しているのも、こうした零細企業の経営を苦しめている要因の１つだろう。工場が劣化していても無関心で、商品包装の要である安全衛生、中身商品の保護などの品質保証の観点でも配慮が欠けている。発注価格を低く抑え、発注側の利益を最優先することがいいことなのか。倒産廃業した時はどうするのかといった課題に対してはどう考えているのだろうか。品質と価格は深い相関関係にあるが、発注者にとっても「安物買いの銭失い」ではないだろうか。

一方、受ける側にも問題はあるはずだ。顧客の要望を全て受け入れてしまえば、厳しい経営環境に陥ってしまう。どこかで交渉して取引条件を改善するチャンスはあったであろう。

いずれにしても、このままでは軟包装業界は失われてしまう。包装産業界においては、改めて製造現場の現状を見直し、製販一体となって改善していくことが包装業界の発展につながるはずだ。

注）この記事は、2022年９月19日付の包装タイムスに掲載された記事を一部手直しして再掲したものです。

外国人技能実習評価試験 印刷職種・グラビア印刷作業評価試験
真丸特殊紙業・新潟工場 第7回出張試験報告

報告者：全国グラビア協同組合連合会
顧問　村田　英雄

2022年8月30日（火）、JR東日本・上野駅から、昼過ぎ発の新幹線 特急「とき」の車内にて、監督者の都築晋平氏、岩本清一氏と3人で落ち合い、一路、新潟へ向かいました。私と都築氏は、駅弁（シュウマイ弁当）を仕入れ、列車内で、遅昼食としました。新潟まで行くだけなので、チューハイ付きとしました。

「ちょいと一杯」

JR上野駅の新幹線ホームにて

新潟まではちょうど2時間です。午後3時頃に駅前のホテルにチェックインし、午後5時から、明日午前に予定している真丸特殊紙業㈱新潟工場（新潟県阿賀野市かがやき5番1号）さんでの会議の段取り等を打ち合わせしました。私は、声が出ないので、岩本氏に評価試験の概要の説明と確認、都築氏には実技試験の内容と注意点等の説明をお願いすることになりました。

ところで、都築氏は午後5時ぎりぎりに打ち合わせの場所に汗を拭いながらやって来ましたので、聞きましたら、1時間半、ホテルの周りをジョギングしてきたそうで、元気が良いのには驚きました。

午後6時から夕食ということになり、新幹線の中で、検索して決めていた駅前の「へぎそば」屋へ行くことになりました。まだ時間が早いせいか、店内は空いており、我々だけのようでした。早速、生ビールを頼みましたが、機械が故障しているので、瓶ビールでの乾杯となりました。しばらくして「へぎそば」が出てきまして、いただきました。やっぱり新潟は「へぎそば」（注：つなぎに布海苔（ふのり）という海藻を使った蕎麦をヘギといわれる器に盛り付けた切り蕎麦）です。美味かったです。

本場の「へぎそば」

翌31日（水）、試験当日の朝9時半に、中田善規氏と劉 学春氏に車でのお迎えをいただき、真丸特殊紙業・新潟工場へと向かいました。

真丸特殊紙業・新潟工場では、一昨年の11月に第1回の評価試験を実施しており、監督者も今回

と同じメンバーでした。新潟工場は、工業団地の中にあり、前回もそうでしたが、相変わらず工場はまばらで、空いたところには、太陽光発電パネルが多数設置されていました。また、道端の立て看板には【m^2あたり9,000円】と出ていました。

真丸特殊紙業・新潟工場に到着後、早速会議室にて、午後からの評価試験についての打ち合わせが始まり、岩本氏が評価試験の概要を説明しました。続いて、都築氏より評価試験の内容、判断等試験、製作等作業試験の詳細の説明が行われました。質疑も行われましたが、前回経験済ですので、スムーズに事は進みました。その後、製作等作業試験現場、判断等試験場の見学をし、都築氏より、いくつかの質問、要望が出されました。現場見学も終了し、11時45分に食事休憩とし、午後1時15分、受験者受付から一連の評価試験を開始しました。

今回は、判断等試験会場が印刷工場内となっているため、「衛生管理作業」と「安全衛生」が先となりました。工場内入場に際し、決められた服装の点検、指先の確認、手洗い、ゴミ取りロールの実施、エアーシャワー、安全靴、帽子、手袋、安全マスク等の点検をしました。

まず、「判断等試験」の説明が都築氏よりあり、岩本氏のホイッスルにて開始されました。

試験時間は、12問 20分です。

かなり厳しいです。試験内容も日本語をしっかり理解できていないと難しい問題です。

5分間の休憩後、「製作等作業試験」を始めました。

最初は「インキの溶剤希釈調整」です。制限時間10分で、今回は、インキ粘度をザーンカップ15秒の設定で行いました。インキは白インキです。3名別々に行い、終了次第監督者によってザーンカップの秒数の計測を行い、得点を判断しました。

次に、「ドクターブレード調整」です。制限時間は10分で、ドクターブレードをホルダーのサイズに合わせて、当て刃とドクターブレードを指定の位置にひずみが無いように取り付けるというものです。

今回は、当て刃25mm、ドクター5mmの設定で行いました。

また、ボルトの締め付け順番、適正な締め付け具合を行うというものです。

最後は、「調整済みインキの補充」の問題です。制限時間は20分です。

今回「緑の引き紙」を用意し、インキは黄（Y）、紅（M）、藍（C）の3色を用意し、見本の緑色を調色するテストです。どの色のインキを混ぜて調色するか、引き紙に展色できるか、色見本に合わせて色を比較調整できるかのテストです。3名の受験者が同時に行いました。

採点は、監督者の目視と、色差計（分光測色計）にて測定し、ΔEの数値による判定を採点としました。

「製作等作業試験」には衛生管理作業、安全衛生も含まれ、5問50分で「判断等試験」と合わせ合計100点です。

以上、衛生管理作業、安全衛生、判断等試験、製作等作業試験までのすべてを午後3時30分に終了しました。

前回もそうでしたが、今回も真丸特殊紙業・新潟工場の皆さんは、実に協力的で、スムーズに事が運び、我々監督者、事務局を助けていただきました。誠にありがとうございました。重ねて御礼申し上げます。

会議室にて、関係者の皆さんに御礼を申し上げ、玄関前で記念写真を撮らせていただき、劉氏の車にて新潟駅に向かいました。駅で劉氏に御礼を申し上げ、午後5時前発車の「とき」で帰京しました。

※今回、初めての専門級の実技試験、判断等試験を行いましたが、今後の評価試験の参考にしようと思います。

なお、今回の評価試験を受検した、3名全員が合格となりました。

新潟駅を出た直後の、新幹線の車窓からの眺め

真丸特殊紙業・新潟工場の玄関前にて。
左より、監督者の村田英雄、都築晋平氏、真丸特殊紙業新潟総務部次長の稲生賢人氏、生産本部本部長の渡辺信二氏、取締役経営企画室長の靏巻京彦氏、監督者の岩本清一氏、事務局員の劉 学春氏

Information

JPI、『「包装用語早わかり」包装用語辞典』を10月中旬に発刊

日本包装技術協会（JPI）は、包装に関する基礎的用語を文章、イラスト、図表、写真などで分かりやすく解説した『「包装用語早わかり」包装用語辞典』（A5変形判、340頁）を10月中旬に発刊する。定価は5,500円（税込・送料1,000円／冊）。同書の購入は、JPIホームページの予約申し込みのフォーム（https://www.jpi.or.jp/form/syuppan/form3/form.cgi）より受付中。

第12回「グラビア印刷技能実習評価試験委員会」開催
真丸特殊紙業の受検者3名を合格とし、委員会へ報告

第12回グラビア印刷技能実習評価試験委員会が、2022年９月５日（月）午後３時～４時まで、Zoom を利用してのオンラインにて開催された。当日の出席者は、浮田信也委員長（大和産業㈱代表取締役社長、東海グラビア印刷協同組合・副理事長、全国グラビア協同組合連合会・理事）、袖山髙明委員（全グラ・専務理事）、都築晋平技術委員（㈱日商グラビア・営業技術 理事）、専門委員の柳谷承示氏（全グラ・顧問）、村田英雄氏（同）、劉学春氏（全グラ・特別委員）、小池行生（ゆう）氏（同）、オブザーバーの岩本清一氏（（一社）日本印刷産業連合会・GP 認定審査員）の８名。

浮田委員長の挨拶の後、８月31日（水）に、真丸特殊紙業㈱新潟工場で実施された、初の技能実習２号への移行のための、第７回印刷職種・グラビア印刷作業技能実習評価試験の結果について、概要報告、採点表を参考に、受検者３名を合格とし、以上の決定を「グラビア印刷技能実習評価委員会」（竹下晋司委員長）に報告することとした。

Information

JPI、10月24日、25日にJPIWEBフォーラム開催

日本包装技術協会（JPI）は、2022年10月24日（月）午後3時～4時まで「フィルムボトル開発事例のご紹介」を、25日（火）午前10時～12時まで、「ポリプロピレン樹脂の基礎と技術動」と「バイオマス樹脂、マスバランス方式の概論」をテーマに JPIWEB フォーラム（Zoom ウェビナー）を開催する。講師は、24日が花王㈱包装技術研究所の倉賀野 彰グループリーダー、25日が㈱プライムポリマー 産包材研究所の犬飼章博主幹研究員と三井化学㈱グリーンケミカル事業推進室の池永裕一室長付。24日は、花王が開発したフィルムボトル「Air in Film Bottle」（エアインフィル ムボトル）の開発事例を紹介する。

25日は、講演の前半ではプライムポリマーの犬飼氏がポリプロピレン樹脂の製造や物性に関する基礎と、昨今の技術動向を解説する。講演後半では、三井化学の池永氏がバイオマスナフサを原料とするバイオマス樹脂の製造と、その管理手法としてのマスバランス方式について紹介する。参加費は、会員無料、一般11,000円（1部会、税込）。申込は JPI ホームページ（https：//www.jpi.or.jp/）より登録する。

第9回「グラビア印刷技能実習評価委員会」開催
真丸特殊紙業新潟工場の3名合格を正式承認

第９回グラビア印刷技能実習評価委員会が、2022年９月６日（火）午後３時より、オンラインにて開催された。当日の出席者は、竹下晋司委員長（関西グラビア協組・理事長：㈱ダイコー）、若狭博徳委員（北海道グラビア印刷協組・理事長：㈱北海サンコー）、田口 薫委員（関東グラビア協組・理事長：大日本パックェージ㈱）、石井 純委員（関東プラスチック印刷協組・理事長：㈱多漣堂）、杉山真一郎委員（東海グラビア印刷協組・理事長：富士特殊紙業㈱）、母里圭太郎（九州グラビア協組・副理事長：㈱平野屋物産）、佐伯鋼兵委員（埼玉県グラビア協組・理事長：㈱佐伯紙工所）、賀谷真尚委員（北陸グラビア協組・理事長：賀谷セロファン㈱）、グラビア印刷技能実習評価試験委員会の浮田信也委員長（東海グラビア印刷協組・副理事長：大和産業㈱）の９名。

2022年９月５日（月）午後３時よりオンラインにて開催された第12回グラビア印刷技能実習評価試験委員会の内容について、同委員会の浮田委員長より報告があり、８月31日（水）に、真丸特殊紙業㈱新潟工場で実施された、技能実習２号への移行のための学科および実技試験を受検した３名について、合格を正式に承認した。

Information

日本包装学会バリア材料研究会、10月26日に「循環型社会に向けた包装技術開発」開催

日本包装学会バリア材料研究会は、2022年10月26日（水）午後1時～5時10分まで、第25回バリア材料研究会「循環型社会に向けた包装技術開発」をオンライン（Zoom）で開催する。プログラムは次の通り。

13：00～13：10　開会挨拶

13：10～14：05
持続可能な社会の実現にむけてDNP環境配慮パッケージングGREEN PACKAGINGとLCA
大日本印刷㈱ Lifeデザイン事業部 イノベーティブ・パッケージングセンター ビジネスデザイン本部 環境ビジネス推進部 第2グループ　濱田 倫氏

14：05～15：00
進化を遂げる生鮮食品パッケージ
㈱寺岡精工 フードインダストリーシステム事業部 マーケティンググループ　矢野光隆氏

15：10～16：05
食品ロスの削減に向けた取り組み～「バリアスキンパック包装」による生肉の鮮度保持効果～
住友ベークライト㈱ フィルム・シート研究所 研究部　大槻彰良氏

16：05～17：00
環境対応バリア包装材と食品保存試験
㈱クラレ エバール事業部 市場開発部 第二グループ　北村昌宏氏

2022年 9月印刷の月記念式典

日印産連表彰に小金澤氏、松崎氏
印刷産業環境優良工場表彰にダイトー

（一社）日本印刷産業連合会の「2022年9月印刷の月記念式典」が、2022年9月14日（水）午後4時～5時30分まで、東京・ホテルニューオータニ「鶴の間（東）」において開催されました。新型コロナウイルス感染症対策のため、懇親会は中止となりましたが、日印産連傘下10団体の会員、来賓、業界関係者207名が参集しました。

会長挨拶

開会にあたり、（一社）日本印刷産業連合会の北島義斉会長（大日本印刷㈱）が次のように挨拶を行いました。

コロナの影響が続く中ではございますが、皆様の多大なお力添えの下、この式典を開催できますことに深く、感謝申し上げます。また、本日、印刷業界に多大な功績を残された、日本印刷産業連合会の日印産連表彰を受賞された皆さん、環境配慮などで模範となる、印刷環境優良工場表彰を受賞された皆さん、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げますとともに、これからも業界の発展に力を尽くされることを期待しています。

そして、第46回技能五輪国際大会に印刷職種の日本代表として出場される甲斐田 光選手の健闘を称える壮行セレモニーを執り行います。日頃の業務で培った強みや練習の成果を本番でも存分に発揮されることを、私たち一同願っております。ぜひ、がんばっていただきたいと思います。

さて、国内外でコロナ対策と経済活動の両立が進み、国内では緩やかな景気の持ち直しが見られる一方、ウクライナ情勢をはじめとして地政学リスクの高まりや物価の上昇、円安の影響などによって依然として先行きは不透明な状況が続いています。

印刷業界では紙の印刷需要の減少、用紙、フィルムなどの原材料やエネルギーの値上がりなど経営環境の厳しさが増す中でも、人々の暮らしや働き方、業務プロセスの変化にも対応してDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進などによって新しい価値の創出に取り組んできました。

こうした中、新しい資本主義の実現に向けて政府が様々な施策を推進されています。その1つに、円滑な価格転嫁に向けた取り組みがあります。日印産連では、昨年末から3回にわたり、印刷物ご発注に関するお願いの文書を会員企業の皆様に発信させていただいています。また、この9月は「価格交渉促進月間」でもあり、本日14日の日経新聞朝刊に日印産連、および関連10団体の連名で意見広告を掲載しました。会員企業の皆様にはぜひお取引先との交渉を粘り強く進めていただくとともに、こうした取り組みの成果や品質サービスの向上などに努めて印刷産業への理解につなげていただくことを期待しています。

日印産連では今年度からSDGsの推進を事業の

柱として活動強化しています。その一環として、今年６月に印刷業界用SDGsターゲットマッピングリストを独自に開発し、日印産連のウェブサイトに掲載しました。ぜひ、このリストを会員企業の皆様にご活用いただき、SDGsのゴール達成と新たな社会貢献やビジネスの創出にお役立ていただきたいと思います。

また、今年11月に行われるIGASS2022に日印産連および会員10団体としてブースを出展します。業界団体の結束の場として、スローガンである「Change Together」の下、印刷業界全体や社会に向けて印刷の強みを生かしたイノベーションの姿や持続可能なより良い未来を実現していく印刷業界について発信していく予定です。皆様方にもブースに足をお運びいただきたいと思います。

今後も日印産連は会員10団体の皆様方と連携をさらに深めて、様々な活動を充実させて、国内外への情報発信を強化していきます。本日ご出席の皆様方には、改めまして日印産連に対する日ごろのご支援に感謝するとともに、今後とも一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。併せまして、会員10団体、並びに関連団体の皆様方の益々のご発展とご健勝を祈念しまして開会の挨拶とさせていただきます。

祝辞

続いて、来賓代表として、経済産業省商務情報政策局の藤田清太郎審議官より、次のような祝辞が述べられました。

本日、日印産連の2022年９月印刷の月記念式典が開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

印刷産業の高度化と発展を通じて我が国の産業全体の発展と国民生活の向上に大きな役割を果たしてこられた貴連合会の皆様、そして長年にわたり、印刷産業の発展に寄与され、日印産連表彰を受ける皆様、環境対策など社会的課題に取り組まれ、印刷産業環境優良工場表彰を受ける皆様、心より敬意を表します。

印刷産業は商業印刷や出版印刷をはじめとして私達の身の周りの多くのものにかかわっており、その地域の顧客のニーズや昨今の産業構造に合わせた多様な事業展開は我が国のサプライチェーンの重要な位置を占めていると同時に、国民生活を支える大変重要な産業です。

その中で、貴連合会は傘下10団体、会員企業6,625社が加盟され、印刷産業だけでなく関連産業の振興に不可欠な組織です。貴連合会は昨年アフターコロナプロジェクトを立ち上げ、コロナ禍の実態調査や今後の印刷業界の在り方、方向性を協議し、印刷業界が取り組むべきこととしてデジタル化への対応、SDGsへの対応、地域コミュニティの形成によるワンストップ高付加価値サービスの実現、受け身体質からの脱却を提言として取りまとめ、今年度その実現に向けて活動されていると承知しています。

新型コロナウイルス感染症や現在の原油価格、物価高騰など大変厳しい経済状況の中にありますが、印刷産業の持続的発展に向け、経済産業省としては事業活動の新たな価値創造をもたらす、新分野展開、業態転換、それから事業、業種の転換などの事業再構築に対する支援やデジタル化など生産性を向上させる前向きな設備投資への支援、こういったものを通じて引き続き、応援させていただきます。

さらに、官民連携の下でも社会課題を成長のエンジンに変え、力強い成長を実現する持続可能で包摂的な社会経済を作っていくため、新しい資本主義を実行してまいります。その１つとして、昨年末に取りまとめた「パートナーシップによる価値創造のための転嫁円滑化施策パッケージ」、およ

び今年２月に取りまとめた「取引適正化に向けた５つの取組」に基づき、下請取引適正化に取り組んでいく所存です。貴連合会においては、印刷業界の下請取引環境の実態を踏まえ、印刷業界の自主行動計画を今年３月に策定いただきました。これを受け、適正な取引を推進していくための、下請ガイドラインの改訂、印刷産業における取引改善等に向けた方策を皆様とともに検討を進めています。引き続き、お力をお貸し願えれば幸いです。

全国の各地域に根差し、事業を展開されている印刷業界の皆様の活躍なくして、日本経済の成長はありえません。今後も地域から日本を元気にしていただくことを期待しております。

最後になりましたが、本式典の成功と日本印刷産業連合会会員、組合員各社の皆様、本日ご参集の皆様のご健勝と業界の益々のご発展を祈念し、私からの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

日本印刷産業連合会表彰

長年にわたり、印刷産業の発展に貢献された個人・団体に対して顕彰する制度で、今年度は、印刷功労賞９名、印刷振興賞17名が表彰をうけました。全国グラビア協同組合連合会組合員２名が受賞の栄に浴されました。受賞者は以下の通りです。

〈印刷功労賞〉

小金澤 和夫 氏

東和グラビヤ印刷㈱　取締役会長

〈印刷振興賞〉

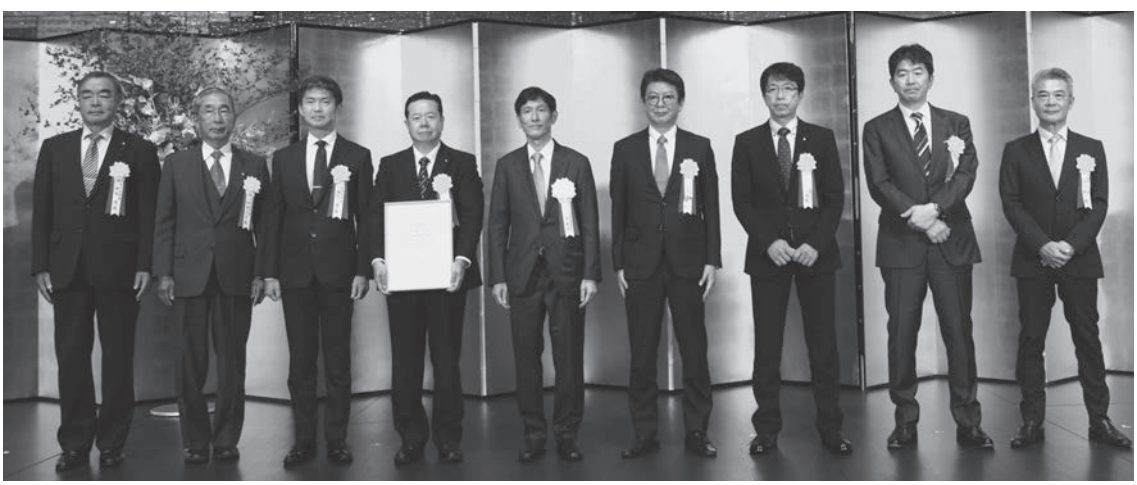
松崎徳治 氏

東洋 FPP ㈱川口製造所　所長付

〈受賞者代表謝辞〉

印刷功労賞を受賞した池田印刷㈱の池田幸寛代表取締役より、次のような謝辞が述べられました。

印刷功労賞を受賞した小金澤 和夫氏（右から2番目）



印刷振興賞を受賞した

私がこの業界に入ったのは、40年前、そして社長になったのがおよそ30年前です。生まれたときから家業が印刷業でした。自宅の近くには会社があり、幼少の頃は毎日、活版印刷の組版をやっていた現場に、本人は遊びに行っていたつもりだったのでしょうが、会社の皆さんには大変迷惑をかけていたのかなと思う次第です。今は懐かしい、活字の組版でしたので、テーブルの上に何時間もかけて作った組版を、校正を出している間に、私にバラバラにされてしまう、そういった懐かしいことを頭の中で今、思い出していました。そんな活字も私の幼少のころの遊び道具の１つでした。根っからの印刷人です。

まだまだ、こんな大層な賞をもらう年齢ではないなと思いながらも、これからも、そして業界の皆様に対しても後輩に対しても印刷のすばらしさを伝えていきたいと思っています。この度の受賞を改めて感謝し、皆様方のご支援に厚く御礼申し上げ、謝辞とさせていただきます。ありがとうご

ざいました。

第20回印刷産業環境優良工場表彰

一般部門、小規模事業所部門合計65工場の応募の中から、経済産業大臣賞１工場、会長賞３工場、奨励賞８工場、計12工場が表彰されました。全国グラビア協同組合連合会からは１工場が受賞の栄に浴されました。

〈（一社）日本印刷産業連合会奨励賞（一般の部）〉

㈱ダイトー　本社川越工場

代表者　代表取締役社長 市村清一 氏

〈受賞者代表謝辞〉

経済産業大臣賞を受賞した㈱太陽堂印刷所の日暮秀一代表取締役より、次のような祝辞が述べられました。

自らの会社を振り返りますと、私どもの会社は第５回の表彰のときに、奨励賞をいただいております。今回は第20回ですから、16年間、行きつ戻りつしながら環境に配慮した様々な施策を打ってきました。

その原点となるのが、ちょうど京都議定書が制定されたときに、記憶が定かではないのですが、私が確か全印工連の環境委員会かなにかの代表で、当時の日印産連の環境委員会というものに出向していました。そのときに、様々な方々が環境のことにここまで取り組まれていることに刺激を受けた思い出があります。

そして、京都議定書が制定されてから、CO_2の排出が一番多い産業は印刷業とクリーニング業だと当時言われた記憶があります。そこで、日印産連から業界の目標数値が出されて、印刷産業は２年か３年でその目標をクリアしたはずです。そのときに、我々の産業は実行力があるなと、僭越ながら感じた次第です。

それ以降、私どもは日印産連会長賞、６年前には商務情報政策局長賞をいただき、今回大臣賞の栄を浴することができました。とにかく、環境の分野は様々な法律に則って対応をせざるを得ないということが、この16年間でよく分かりました。今年、日印産連では、環境の六法のような冊子を発行されています。私の組合では全組合員に配布し、「ここまでのことをやらなくてはならないんだよ」、あるいは「ここまでの法律に則って、我々は

日印産連奨励賞（一般の部）を受賞したダイトーの市村清一氏（右から2番目）

動かなくてはならない」と何度も申し上げています。私どももそのために、様々な対応を取って今日まできています。昨今、ニュースを聞いていると、地球温暖化の影響でということで、我が国はもとより、諸外国でも大洪水が起きたり、山火事が起きたり、食料がうまく生産できないなど、様々な地球環境の影響を受けています。

そのような中において、我々は本当に小さな力にしかなりませんが、各社様が少しでも改善に向かう方策を火急にお考えになられて、一歩一歩、突き進めていかなければ、2050年ゼロエミッションに到達しないのではないかという思いがします。

一人ひとりは小さな力ですが、大きな課題を背負っていると思います。今日お集まりの機械メーカーさん、資材メーカーさん等々も一緒にご尽力いただいて、益々この世の中で求められる印刷産業になるべく、努力していきたい、努力していかなくてはならないと思います。

第46回技能五輪国際大会（特別開催）「印刷」職種壮行セレモニー

2021年９月に中国・上海において開催が予定されていた第46回技能五輪国際大会が、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により１年程度延期となり、22年10月に開催することになっていましたが、中国・上海でのロックダウン継続の影響により中止になることが決定されたことを受けて、22年９月から11月にかけて第46回技能五輪国際大会（特別開催）が、日本を含む15カ国で分散開催されることとなりました。「印刷」職種については、10月12日～15日までスイス・アラウにおいて開催されます。

式典では、厳しい選考会を勝ち抜き、日本代表の座を射止めた甲斐田 光選手（㈱丸信）の健闘を願い、壮行セレモニーが行われ、日印産連技術部会の福田浩志部会長から、甲斐田選手と田中 剛エキスパート（ハイデルベルグ・ジャパン㈱）に花束とともに、次のような激励メッセージが贈られました。

国際大会の出場おめでとうございます。そして、本当にお待たせしました。甲斐田さんの国際大会の挑戦は、2018年のカザン大会の代表選考会から始まります。このときは残念ながら２位で代表に手が届きませんでした。リベンジを期して、2020年の上海大会代表選考会に挑み、見事に代表の座を掴みました。しかし、直後にコロナの影響で2021年の開催から、2022年への延期が決定し、１年待たされました。さらに今年、上海での開催が中止になり、７月になってようやく代替の大会が決定したということで、モチベーションを維持するのが大変だったのではないかと想像します。

５年越しの挑戦でやっと国際大会に出場できるわけですから、悔いの残らないよう、全力で戦ってきてください。そして、一生に一度だけの機会を十分に楽しんできてください。結果を楽しみにしています。がんばってください。

続いて、甲斐田選手、田中エキスパートより次のようなコメントが述べられました。

甲斐田選手

このたびはこのような機会をいただきまして、本当にありがとうございます。大会まで１カ月を切り、訓練もここからが詰め時なので一生懸命、励んでいきたいと思います。指導員の方からも「訓練中に笑いは必要ない、本番に笑えればそれでいい」と言われたので、訓練中は一切笑わず、大会での結果はどうであれ、実力を発揮して悔いが残らないようにしたいと思います。本日は誠にありがとうございました。

田中エキスパート

今回初めて国際大会に参加させていただきますが、予選の国内大会では2007年から参加してきました。本来であれば、64職種の日本の団体でチームとして海外に行って、競技を行いますが、今回アラウには日本からは我々だけなので、甲斐田選手も寂しい思いをすると思いますが、そういった部分をサポートして、良い成績を残せるようにがんばりたいと思います。

閉会挨拶

日印産連の堆 誠一郎副会長（㈱TAKARA & COMPANY）より、次のような挨拶が行われました。

今日、各賞を受賞された方々、本当におめでとうございます。日印産連ではSDGsを推進していますが、日本の企業人には三方良し、「売り手良し」「買い手良し」「世間良し」がありますので、目新しい内容ではない気がしますが、これを印刷関連に従事する全員が強く認識して活動していくことは大きなことではないかと思っています。SDGsでは一人も取り残さないということなので、日印産連の仲間も北島会長の下に一致団結して、この変革を1社も取り残さないで全員で取り組んでいこうと考えていると思います。

日印産連の益々の発展と会員各社様のご発展を祈念して、閉会の挨拶とさせていただきます。

終了後に3人で記念撮影

2022GP 認定制度3賞決定

GP マーク普及大賞は北四国グラビア印刷
賀谷セロファン、巧芸社、東包印刷に準大賞

（一社）日本印刷産業連合会（日印産連）は、グリーンプリンティング（GP）認定制度の2022年度「GP 環境大賞」「GP マーク普及大賞」「GP 資機材環境大賞」の受賞者（※各賞とも五十音順）を以下の通り決定した。

GP 環境大賞

印刷業界が地球環境への負荷低減に取り組むために創設した GP 認定制度に対し、深い理解と同制度を積極的に活用している企業や団体に敬意と感謝の意を込めて贈るもの。2022GP 環境大賞は、2021年度（2021年４月～22年３月）に GP マークを表示した印刷製品をより多く発行した企業・団体を表彰するもの。

また、パッケージを中心に GP マーク表示が急拡大する中、表彰の対象を一般印刷とパッケージ印刷の２部門に分けるとともに、過去３回 GP 環境大賞を受賞した企業・団体には、４回目の表彰時にその活動に対して最大の賛辞と敬意を表するために「GP 環境大賞ゴールドプライズ」を贈呈している。

GP 環境大賞ゴールドプライズ（1団体）

東京都

※ GP 環境大賞ゴールドプライズをすでに受賞している企業
NTT タウンページ㈱、大阪商工信用金庫、㈱タカラトミー

一般印刷の部

2022GP 環境大賞（4社）

あいおいニッセイ同和損害保険㈱
㈱ジェイアール東日本企画
東武鉄道㈱
㈱ホテルショコラ

2022GP 環境準大賞（5社・団体）

社会福祉法人恩賜財団済生会
日本航空㈱
㈱ホンダカーズ横浜
㈱ホンダコムテック
三鷹市

パッケージ印刷の部

2022GP 環境大賞（1社）

㈱あわしま堂

2022GP 環境準大賞（6社）

国分グループ本社㈱
㈱旬菜デリ
竹下製菓㈱
プレミアアンチエイジング㈱
㈱マルキン海産
レインボー薬品㈱

GP マーク普及大賞

GP マーク表示にもっとも貢献した GP 認定取得の印刷会社を他の会社の模範として表彰するもの。2022GP マーク普及大賞は、2021年度に GP マーク表示印刷製品をより多く製造し、GP マーク普及に貢献した印刷会社を、オフセット印刷部門、グラビア・シール・スクリーン印刷部門、製本・表面加工部門の３部門に分けて表彰する。

オフセット印刷部門

2022GP マーク普及大賞（3社）

NTT 印刷㈱
㈱笠間製本印刷
六三印刷㈱

2022GP マーク普及準大賞（9社）

伊藤印刷㈱
岩岡印刷工業㈱
㈱大川印刷
精英堂印刷㈱
㈱太陽堂印刷所
谷口印刷㈱
㈱文伸
丸正印刷㈱
稚内印刷㈱

グラビア・シール・スクリーン印刷部門

2022GP マーク普及大賞（1社）

㈱北四国グラビア印刷

2022GP マーク普及準大賞（3社）

賀谷セロファン㈱
㈱巧芸社
東包印刷㈱

製本・表面加工部門

2022GP マーク普及大賞（1社）

㈱ NACAMURA

GP 資機材環境大賞

印刷工場の環境負荷低減および作業環境改善に貢献し、GP 資機材認定製品を積極的に提供いただいている資機材メーカーに贈るもので、2022年４月１日時点で GP 資機材認定製品の登録が最も多い資機材メーカーに対し、資材、機材の部門別に表彰する。なお、同賞は、過去に同部門を受賞したメーカーは選考対象外となる。

資材部門

2022GP 資機材環境大賞（1社）

コダック合同会社

機材部門

2022GP 資機材環境大賞（1社）

コニカミノルタジャパン㈱

印刷業界「意見広告」
9月14日の日経新聞に掲載

（一社）日本印刷産業連合会および会員10団体は、昨今の原材料費やエネルギーコストの価格高騰に対し、印刷業界として価格転嫁へのご理解を訴えるべく、「9月印刷の月」記念式典の当日の2022年9月14日（水）の日本経済新聞全国版・朝刊に「意見広告」（モノクロ）を出稿した。

印刷業界はデジタル化の進展とコロナ禍により需要は減少、そこに追い打ちをかけて昨今の原油、エネルギーコスト、用紙・インキ・刷版材料の価格高騰の影響で、大変厳しい状況となっている。政府は「価格転嫁円滑化のための政策パッケージ」を昨年末策定し、全産業界に対し要請をしているが、実情は厳しく、なかなか価格転嫁できていない。

そのような状況の中、会員団体から日印産連に対して、発注者側（クライアント業界）への働きかけの要請を受け、会員10団体と協議の結果、政府が推進する「価格交渉強化月間」である9月に合わせて、日本経済新聞の朝刊に「意見広告」を掲載した。

内容については、窮状を訴えるだけではなく、この大きな環境変化を業態を大きく転換させるチャンスと捉え、新たな取り組みにチャレンジし価格を超える価値を提供していきますという前向きなメッセージと共に、「価格転嫁」へのご理解を訴える文面となっている。

印刷業界「意見広告」　2022年9月14日（水）日本経済新聞　全国版／朝刊　掲載

（一社）日本印刷学会 技術委員会 グラビア印刷技術研究会

第13回研究例会
11月9日に「包装業界のDX」開催

近年、日本の印刷業界は少子高齢化による労働力人口の減少を発端に、働き手の不足やノウハウの消失が深刻化しています。また、新型コロナ等の感染症対策も含め、今後の事業継続、競争力強化のためにもDX（デジタルトランスフォーメーション）による業務体系の見直しと工程の最適化を進めていくことが急務となっています。

今回、包装分野にてDX化を実践しているメーカー、有識者をお招きし、活動内容や今後の取り組みについて講演していただきます。また、講義の最後に講師陣とのパネルディスカッションも開催いたします。将来に向けDX化を進めるうえでヒントになるかと存じます。皆様のご参加をお待ちしております。

開催概要

主　催：（一社）日本印刷学会 技術委員会 グラビア印刷技術研究会
協　賛：関東グラビア協同組合、全国グラビア製版工業会連合会
日　時：2022年11月9日（水）　13時30分～17時（13時より配信開始）
開　催：オンライン開催（Zoomウェビナー開催）
受講に必要な準備、方法に関しては、以下のURLをご参照下さい。
http://www.jspst.org/event/pdf/ZoomPreparation.pdf

プログラム

13：30～13：35　**開会の挨拶 / 諸注意**

13：35～14：15
包装業界におけるDXの“現在地”と「2025年の崖」への転落を防ぐ3つの処方箋
㈱テックコンシリエ　鈴木健二郎氏

戦略コンサルティング会社の立場から、2022年現在の包装業界におけるDXの取組みを概観し、多くの企業で共通課題となっている事項をその原因とともに考察する。また、課題を乗り越えつつあるいくつかの先進事例を通じて処方箋のアイデアを提示することで、経産省が警鐘を鳴らす「2025年の崖」の乗り越え方と今後のDXの動向を展望する。

14：15〜14：55

軟包装印刷向け遠隔色校正システム

富士フイルム グローバル グラフィック システムズ㈱　大橋 彰氏

パッケージ印刷で重要となる印刷立ち会い確認を、モニター上で行い、リモートで品質合意するシステムをリリースした。その技術要素と市場要請の背景について紹介する。

15：00〜15：40

品質外観検査装置と生産工程におけるDX

東京計器㈱　小薗研人氏

東京計器では、デジタル技術を活用して生産工程とネットワークを構築し、生産性向上により新たな価値を生み出していく品質外観検査装置を提供している。品質外観検査装置のシステム構成から品質検査の課題解決のための特長・機能について紹介する。また、生産工程におけるDXについて、品質外観検査装置としての具体的な取り組みについても紹介する。

15：40〜16：20

包装工程周辺のロボティクス化と装置のDX化

オムロン㈱　上村洋文氏、山本郁夫氏

オムロンでは、人を超える自動化、人の機械の高度協調、デジタルエンジニアリング革新を掲げオートメションでものづくりを革新して社会課題の解決に取り組んでいる。協調ロボットや搬送ロボットを活用した自動化事例と生産装置のデータを活用した生産性や保全性ついて紹介する。

16：25〜16：55

パネルディスカッション「DX化の壁と挑戦」

モデレータ：㈱テックコンシリエ　鈴木健二郎氏

パネラー：富士フイルム グローバル グラフィック システムズ㈱　大橋 彰氏
東京計器㈱　小薗研人氏
オムロン㈱　上村洋文氏、山本郁夫氏

16：55〜17：00　**閉会の挨拶**

定　　員：200名

申込締切：2022年11月1日（火）

参 加 費：正会員・協賛団体員：4,000円

（協賛団体：関東グラビア協同組合、全国グラビア製版工業会連合会）

非会員：6,000円、学生・教職員：1,000円

※視聴される方1名あたりの費用です。複数の方が同一PC等から参加する場合は、申込者とメールアドレスを同じにして聴講者ごとに人数分のお申込みをお願いいたします。

申込方法：

①ホームページから該当する催事参加申込フォームに必要事項を記入して送信下さい。

トップページ→ What's New の催事ご案内→［詳細］→申込方法：⇒申込フォーム

URL：http://www.jspst.org/generateApplicationForm.cgi

②下記する指定口座に参加費をお振込下さい。

振込期限：**2022年11月1日（火）**

【ご注意】

- 参加費が振込まれて申込みの受付が完了となります。参加費未振込の状態では申込みは完了していません。
- 他の催事申込み用フォームが同じページに掲載されている場合がありますので、申込フォーム記入の際には、参加予定の催事をよく確認して下さい。
（ホームページが利用できない場合は、参加希望の催事名称と申込者の氏名、所属、連絡先、Eメールアドレスを明記してメールまたはFAXでお申込み下さい）

振込口座：みずほ銀行（銀行コード0001）銀座支店（店番035）

普通口座口座番号：0050227　口座名義：シヤ）ニホンインサツガツカイ

【ご注意】

※振込の照合のため、振込者名は申込み時に登録した方のお名前（フルネーム）としてください。

※振込手数料は、振り込みをされる方がご負担ください。

※参加費の領収書は金融機関から発行される振込票などをもって代えさせていただきます。

※参加費振込後の申込み取消しはお受け出来ませんので、代理の方の参加をお願いします。

参加案内：参加費の振込確認後に、参加認証メール〔**11月7日（月）一斉配信予定**／セミナー視聴用URLと資料PDFダウンロード方法を記載〕を申込時に登録されたEメールアドレスにお送りします。

※迷惑メール設定をされている場合は、日本印刷学会からのメールが受信可能な設定としてください。

※11月7日（月）中に参加認証メールが届かない場合は、下記連絡先に問い合わせ下さい。

連絡先：（一社）日本印刷学会事務局

〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8

電話：03-3551-1808　FAX：03-3552-7206　E-mail：nijspst-h@jspst.org

お断り：終了時間は予定であり、多少前後することがあります。都合によって講師および演題を変更する場合があります。